

さいわい結核通信 2017

結核は昔の病気じゃない

編集・発行
幸区役所保健福祉センター
衛生課
電話 044(556)6682
2017年6月発行

はじめに・・・

新薬の開発や地域における服薬確認支援（DOTS）等によって結核罹患率・死亡者数は減少傾向です。しかし一方で★結核への認識が薄れ、診断の遅れや重症化してからの発見が見受けられます。

今後、★昭和25年前後の結核まん延期に感染した方が高齢化や他疾患罹患に伴う免疫力低下で発病する場合やグローバル化で海外から結核が持ち込まれる場合が想定されます。この通信を通じて結核を再認識していただきたいと考えております。

統計から見た！幸区の傾向！

2015年、幸区で新たに登録された結核患者（潜在性結核感染症を除く）は**35人**でした。罹患率（人口10万人対）は**21.8**で全国平均と市全体平均を共に上回っており、市内でも結核発生の多い地域です。患者の発生は全国的に減少傾向にありますが、幸区では2016年は**35人**の患者が発生しており、人口増加の影響を受けて罹患率自体は**21.3**と微減していますが、患者数は減っていません。依然全国の罹患率に比べて高い数値が続いており、一層の結核対策に取り組むことが必要です。また幸区の特徴として前年と比較すると働きざかりの結核患者が減った一方で、高齢での発病が増えていることがわかります。

2015 国内の結核動向

●新規結核患者●

18,280人

●罹患率●

14.4(人口10万対)

●結核死亡数●

1,955

●死因順位●

29位

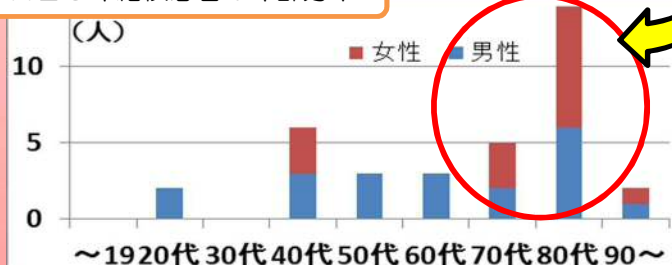


全国で1日に約50人も新規患者が発生し、約5人が結核で命を落としています。

H27年結核患者の年齢分布



H28年結核患者の年齢分布



新規登録患者の罹患率の推移(2015)



幸区は人口に対する患者数の割合が全国と市全体平均を上回ります。

幸区は未だに結核発生の多い地域です！



事例の紹介

●事例1

咳や食欲低下から近医を受診。胸部X検査で「肺炎疑い」となり、その後一般抗菌薬と点滴、週に1回の胸部X線検査でフォローされます。2か月経っても症状が改善しなかったため、患者自ら主治医に専門医療機関へ紹介を打診。初診当日喀痰塗抹G10号がわかり結核病棟に2か月入院を余儀なくされました。

●事例2

職場健診で有所見となり、精密検査を総合病院で受診。2度目の受診で喀痰塗抹陽性が判明し、後日入院となりました。本人の協力で家族に接触者健診実施し、潜在性結核感染症患者（感染者）を早期発見できました。

●事例3

結核高まん延国出身（ex フィリピン、ネパール、中国）の患者で、日頃から定期健診を受けており、周りに感染させる可能性が低い状態で見つかりました。後に薬剤耐性結核が判明し、治療期間が延長しています。

重要

<事例1>結核が少なくなる一方、肺炎や肺癌等との鑑別が難しくなっています。呼吸器症状や微熱、食欲不振、体重減少他、結核の既往歴や高まん延国への渡航歴といった疫学的情報が重要になります。肺尖部の陰影や散布状陰影がある場合は結核も疑ってください。

<事例2・3>健康診断の胸部X線検査で異常を指摘され、その後の精密検査で早期に結核と診断される方が徐々に増えています。早期発見・早期治療・まん延防止のため患者並びに患者と接触するメディカルスタッフの健康診断実施及び報告に御協力ください。

*** 保健所での結核患者療養支援 ***

幸区衛生課では、保健師が医師等と共に結核患者の療養支援を治療開始から治療終了2年後まで行い、並行して接触者に対する健診も実施しています。今後とも結核の医療に御理解と御協力をお願いします。

風邪のようで風邪ではない…そんな時は結核を疑ってください！

2週間以上、咳や痰等が続いたら…

胸部X線検査

結核が疑われる場合

喀痰検査
血液検査 など

結核が疑わしい場合 専門医療機関へ

結核なら保健所へ発生届(ただちに)

結核の手続き等に関するお問合わせは 幸区役所保健福祉センター衛生課まで
☎ 044(556)6682 [8:30~17:00] FAX 044(556)6659 [発生届は24時間対応]